

福井の幕末明治 歴史秘話

<創刊号>

平成28年1月7日発行

鎖国の時代に商社設立！ 福井の産品を海外輸出した由利公正！！

福井県のあわら市と坂井市にまたがり広がっている台地、北部丘陵地。ここで、市民が中心となり、現在『あわら万博茶』の復活に取り組んでいます。

江戸時代に生産が始まったという福井のお茶、その歴史をひもとくと、一人の人物が浮かび上がってきます。それは、幕末明治に活躍した福井藩士由利公正（当時 三岡石五郎）です。一体どのように関わっていたのでしょうか。

安政五年（1858）、由利は藩財政の立て直しのためには外国との通商しかないと考え、熊本藩士横井小楠の帰国に同行して、下関で物産が集散する状況や商取引の実態を調べました。そして、翌年には長崎に行き、唐物商の小曾根乾堂の協力を得て越前蔵屋敷を設けました。

併せて、福井城下に物産総会所を設け、領内の物産の集荷購入の仕組みを整えました。物産総会所とは現在の商社です。販売ルートと輸出先の確保により、生糸や麻・醤油など福井の産品が海外に輸出されていきました。輸出は莫大な富をもたらし、一度に七万両が金蔵に入ったこともあり、その重みで床が抜けたと言われています。

あわらのお茶も輸出品の一つで、輸出をきっかけに生産が盛んになりました。明治26年には米国シカゴの万博博覧会で銅賞、さらに、仏国パリの万国博覧会で金賞をとるほど海外で高い評価を得ることになりました。



シカゴ万博で受賞した銅メダルと賞状

明治、大正に最盛期を迎えた茶園と製茶業は、昭和38年の豪雪により大損害を受けました。現在は、市内にわずかに残るお茶の木を使って茶の手摘み体験を実施しているほか、今後、お茶を使ったスイーツなど食べるお茶としての商品開発にも取り組む予定です。

～幕末ふくい歴史紀行～

[北部丘陵地]

- ・県内屈指の園芸産地。スイカ、ダイコン、メロン等の野菜、梨、柿等の果樹等が栽培されています。
- ・周辺には、景勝地である「東尋坊」や国定公園である海岸線、優れた泉質のあわら温泉等、年間600万人超が訪れる観光地を有しています。



★お知らせ コミック版日本の歴史48 幕末・維新人物伝「由利公正」が発刊されました！

- ・2015年11月発刊(株式会社ポプラ社)。歴史家の加来耕三氏が企画・構成・監修。
- ・福井藩の財政再建に手腕を振るった様子や坂本龍馬との出会い、五箇条の御誓文の草案の起草、東京府知事時代などを描いています。